

左報
第17号

上野東部だより

2010年12月1日

発行

東部地域住民自治協議会

総務広報部会

伊賀市緑ヶ丘本町1681-8

上野東部地区市民センター内

TEL・FAX 24-3999

みんなで遊ぶと楽しいね!



カラフルなペットボトルボウリング



まとあてはマジックテープでベッタンコ



「もしもしあのね…」
糸電話



10月17日(日)10時から、上野東小学校の体育館で就学前の子どもとその保護者を対象にした健康福祉部会主催の「親と子のふれあい」が開催されました。子育てインストラクター・スマイル母を講師に招き、まずは親子で歌に合わせて体操をしました。その後東部地区の民生委員の方々も一緒にじゃんけん列車。「いくつになってもみんなする遊びは楽しいね」そんな会話を交わしながら、最後にはとても長い長い列車となりました。

膝に子どもを乗せて、手遊びの歌、大きな絵本の読み聞かせ、エプロンにさまざまな仕掛けがあるエプロンシアターでは、突然現れ出てきた川の仕掛けに参加した子どもは「すごいっ!!」と歓声をあげていました。

その後は、スマイル母手作りのおもちゃを使って遊ぶ「4つのコーナー」ができました。糸電話や手裏剣、新聞紙を使っての紙鉄砲作りなどの「おもちゃ作り」、マジックテープを活用してボールを的に当てる「まとあて」、牛乳パックで作られた色とりどりの魚を釣る「さかなつり」、綺麗なテープやマーカーで飾られたペットボトルをボウリングのピンにみたてた「ボウリング」。「家でも是非作ってみたい。とても参考になりました」と、でき上がった糸電話で会話を楽しんでいる親子の穏やかな笑顔がとても印象的でした。

参加した小学生と2歳の3姉妹の子どもを持つお母さんは「とても楽しい時間を過ごすことが出来て、来年もあるなら友達にも是非紹介してまた遊びに来たいです」と話していました。また4歳の男の子を持つお母さんは「普段家にいると家事をしながら相手になってしまないので、こういう機会に子どもとじっくり向き合って子どもと共に過ごす1時間半、あっという間に過ぎました」と話していました。

(取材:松永真知子)

経験は必ず役立つ!!

自治協主催の防災訓練は、10月16日平野で開催し、400名の地域内住民が参加しました。訓練は、8種類もの体験をすることができ、各自治会別に全コースを順次回りました。

一人暮らしやから「災害時にはどうしやんとアカンのか経験しどこ」と参加したのは80代の男性。いろんな体験をしました。

「楽しく体験できるように工夫され、変化にとんださまざまな訓練があってみんながいきいきとやってましたね」と60代男性の声。

訓練内容が変化に満ちて「楽しみながら参加できました」とは、30代の女性。

煙体験



・煙体験のテントから出てきた小3、小1の兄妹は、煙を避けるには「できるだけかがんで」と教えてもらってからテントに入ったものの「逃げようと思ても煙ばっかりでなかなか思たとおりにいかへんわ」、「そやけど面白かった」と話していました。

地震体験（起震車に乗って）



- ・震度5弱でも腰から下は動けへんようになった」（60代男性）
- ・震度6強を体験した30代男性は、「思わず机にしがみついたわ！」と恐怖を語っていました。

放水訓練



- ・もっと力が要ると思っていたけど「思ったほど水圧はかかるへんかったわ」と60代女性は楽しく体験した模様をあれこれと。

防災訓練に400名!

消火訓練



- ・日ごろ、消防器使用の手順をしっかり身につけておくことがホンマに大切やと思いました（40代男性）。

救出救護訓練



- ・毛布を横両端から竹やポールに巻きつけたら簡単に丈夫な担架に変身するとは夢にも…。三角巾の代用にはTシャツなどを使用すればいいなど、あわてず冷静に「身の回りの物」を利用すればよいとわかつて貰くなれました（50代女性）。

丸太切り



- ・はじめてチェンソーを使っての作業に挑戦した中1男子生徒は「段々と切断箇所に引き込まれそうに感じてショット怖かった」とも。

全コースを終えると丁度昼時。姉さん被りにたすき掛けの十数名による炊き出し係さんが作ってくれた豚汁と非常食のかやくご飯をいただきました。



車坂町盆踊り大会 復活



8月28日（土）、上野車坂町・東のお旅所で盆踊り大会が行われました。児童福祉会から事前に配布された「無料わたがし券」を手に、子どもたちが次々に集まり、まずは、わたがしコーナーに大行列。浴衣を着ておしゃれにしている子どもたちの姿についつい笑顔になりました。他にラムネやビールなどの飲み物やフランクフルトの販売、うちわの無料配布、スーパー pocarne すくいなど、町をあげて実施しました。十数年ぶりの盆踊りを復活しようとの「あすなろ会」の呼びかけに大勢の方が賛同し、みんなの協力で実現したものでした。

江州音頭が始まると、初めは恥ずかしさからか踊る人の輪が小さかったのですが、誰ともなくお互いに手を引いて「一緒に踊ろうさ」と、どんどん大きな輪になり、そのうちに大きな大きな二重の輪になり、大盛況の中、夜が更けて行きました。

子どももお年寄りも男も女も、皆が生き生きと笑顔で交流し、暑かった夏を吹き飛ばすような「熱い夜」でした。

（取材：東 加奈）

わが町 上野赤坂町

～探訪シリーズ 5～

わが町の誇り世界の芭蕉さん

わが町、上野赤坂町は芭蕉さんの生家があるため観光客が訪れています。しかし、駐車場が名ばかりで隣町の愛染院にある故郷塚ともども観光客が素通りしていくのが残念です。芭翁記念館の建設が俎上に上っていますが、丘の上でなく市街地に作られればと念じています。

赤坂町は古くから街並みを形成していました。明治30年、関西線が開通した当時は、旧桃青中と公園との間の切り通しではなく、市街地から三田のステンショ（現伊賀上野駅）までの通り道として賑わっていました。最近まで赤坂町商店会

があり内科医、呉服屋、提灯屋、菓子屋、麸屋、酒屋、旅籠、床屋、風呂屋、米屋、質屋、タバコ屋などの商店が軒を連ね、生活には困らない、何でも近くで用をたせる便利な町がありました。昭和33年に都市計画で丸之内通りが愛染院角まで延伸拡幅されたことにより、町内が南北に分断され、住民間の行き来が不便になりました。

そうした中でも、赤坂のお地蔵さんとして親しまれている地蔵さんは、町内の人たちの手により手厚く祭られています。毎年8月23日には子どもや地域を守るお地蔵さんとして、お祭りを盛大に行っています。

また、近年製材所跡地に新しい家が次々と建ち、子どもの元気な声もひびき、活性化されているのはうれしいことです。



反の道標
「ならはせ山上道」
「東海道せき道」
「改6年(1823年)」
「赤坂町の銘がある。」



芭翁生家



竹島自治会長



地蔵堂(左)と地蔵盆の賑わい(上)



「心に灯りを」朗天狗

9月11日(土) 教育文化スポーツ部会主催

「子どもから学ぶ 本気の生き方」と題してブックドクター朗天狗の講演会があり40名余りが参加しました。

坊主頭とニッカポッカがトレードマークのしんちゃん。「子どもは思いと行動が一緒、自分にウソをつかない。そんな子どもたちは大人の思いと行動のズレを鋭く見抜きます」と話されました。

「何となく周りに流されて生きてますねエ～。子どもに見られているので、本気に生きたいと思いました。」（40代2児の母）

しんちゃんのお話を聞いた後、皆さん前向きな気持ちで帰途につきました。



子どもは未来への使者

人権啓発講演会に参加して

“子どもたちの健やかな成長を願って”をテーマに、9月4日加納圭子緑ヶ丘中学校長を迎えて講演をしていただきました。

教師の目標として「情熱と使命感、信頼される先生に」ということでした。また、学校としては「学級で人権について考える時間、学校の仲間との意見交流、全校にヒューマンタイム（全校人権集会）」を。いろんな立場から人権に取り組んでおられる様子が手に取るよう理解できました。また、ブラジル国籍のAさんとの出会いの体験から①いやがらせをされていたこと②日系人と結婚すると反対される、こんな事はどこにもあり、小さな事かもしれませんが子どもにとって大きな事です。分かってください、と強調されていました。

思うに私は、人間関係の中で一番大切な点は、お互いの立場・環境・文化を理解し尊重することではないでしょうか。自分だけというエゴは通用しません。他者の苦悩を自己の痛みとして感じ取り、行動していくことが大切ではないでしょうか。個から家族へ世界へと大きく視野を広げ、世界市民としての自覚と誇りを持つことが大切ではないでしょうか。未来への使者である子どもが健やかに成長するように、大人の私たちがもっともっと子どもの心を知り、子どもにとって最高のフレンドになればいいのではないかと思いました。



緑ヶ丘中学校 加納圭子校長

学校訪問1

緑ヶ丘中学校

緑祭 文化の部

10月1日(金)緑ヶ丘中学校で「ありがとう～あなたに伝えたい」のテーマで文化祭が行われました。

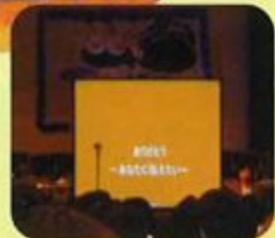
9時、開会宣言で始まり吹奏楽部の演奏、ヒューマンライツ部の人権劇、各学年各組の歌や劇、ダンスに展示発表などがありました。

保護者や地域の人から「こんな大きな声で立派な合唱聞けるなんて思ってなかった😊感動!」「(ありがとうの気持ちが書かれた手形を見て)両親にありがとうって書いてある!? 家であんまりしゃべらないのに感謝してくれてるんだ。」と声がありました。

日頃なかなか伝えられないでいる感謝の気持ち「ありがとう」がたくさん伝わり、温かい気持ちになれた一日でした。

『ありがとう♥』

(取材:西出 直美)



新鮮市

10月17日(日)上野東小学校で、産業振興まちづくり部会主催の「新鮮市」が開催されました。

比自岐住民自治協から新鮮な野菜、尾鷲の取りたての魚、色とりどりの花や手作りパンなどが並びました。



市民センター・公民館建設断念

自治協総会で承認され、いくつかの部会からの推薦も受けた12名で構成する「旧しろはと幼稚園に東部地域市民センター兼公民館建設」のプロジェクトチーム（以下、チーム）を立ち上げて活動してきました。

5月から実質スタートしたチームは、行政機関の一部を担う市民センターとしての役割及び生涯学習を主眼とする公民館としての役割を学習し、それに伴う機能などを念頭に、どのような施設にしていくかの視点で旧しろはと幼稚園を視察しました。これらの中で、①現市民センター・公民館はそのまま存続利用（ヘルストロンもそのまま継続）

②旧しろはと幼稚園は、子育て支援の場（就学前の親子の遊び場としての部屋）や調理室（各種料理教室の部屋）など、現市民センター・公民館ではできない地域活動、生涯学習の拠点として特化させたものとしていく ③障害のある方やお年寄りが利用しやすい施設とする ④現市民センター・公民館が飽和状態となっている利用状況を緩和す

るとともに旧しろはと幼稚園西側道路向かいに車利用者用の駐車場を整備するといった方向を確認してきました。チームは、さらに市人権生活環境部の堀部長を招いて詰めた話し合いをするなど知恵と力を出し合って進めてきました。

また、自治会連絡協議会（自治会の連合会）の意向をうけて今高会長、杉本チームリーダーが角田副市長、堀部長とも会談しました。この中で明らかになったのは、市としてはできれば「教育機関に移譲」したいという意向でした。

この間、2度にわたって、自治会連絡協議会にチームリーダーが出席して、「市民センターを現行のままに、公民館を旧しろはと幼稚園に分割」するなどのチームの考え方を報告し、一致した意見の取りまとめに努力しました。しかし、誠に残念ながら合意に至らず最終的に10月29日の自治協運営委員会に於いて断念することになりました。

プロジェクトチームリーダー 杉本 秀行

マツタケ



年内には決着すると思われていた市民センター建設を断念することになり、東部では関心が高かつただけに残念な結果になりました。これには行政の対応も一因ではなかつたのではないかとも思いました。

東部地域の発展と活性化のためにいろいろな情報やご意見をお寄せいただきますようお願いします。

（服部 孝智）

年内には決着すると思われていた市民センター建設を断念することになり、東部では関心が高かつただけに残念な結果になりました。これには行政の対応も一因ではなかつたのではないかとも思いました。

年内には決着すると思われていた市民センター建設を断念することになり、東部では関心が高かつただけに残念な結果になりました。これには行政の対応も一因ではなかつたのではないかとも思いました。

年内には決着すると思われていた市民センター建設を断念することになりました。これには行政の対応も一因ではなかつたのではないかとも思いました。